



785

2026  
4.22



支部推薦論文の魅力

NISSEIKAN NEWS 日精看ニュース

数字と現場  
から見える、

# 支部推薦論文の魅力



支部推薦での論文投稿は、四半世紀以上続いています。各支部で工夫しながら、日々の看護実践を見つめなおす現場の研究を支え、多くの論文を世に送り出してきました。そこで今回は「支部推薦論文」をテーマに、ここ最近の10年間を振り返りつつ、より多く論文を推薦して下さった支部の方々にうかがったお話をご紹介します。

## 支部推薦論文数ランキング！

※マップ内の本数は過去5年間(2022年～2026年)の平均推薦本数です  
※前回順位は2015年～2019年(コロナ前)の平均推薦本数です

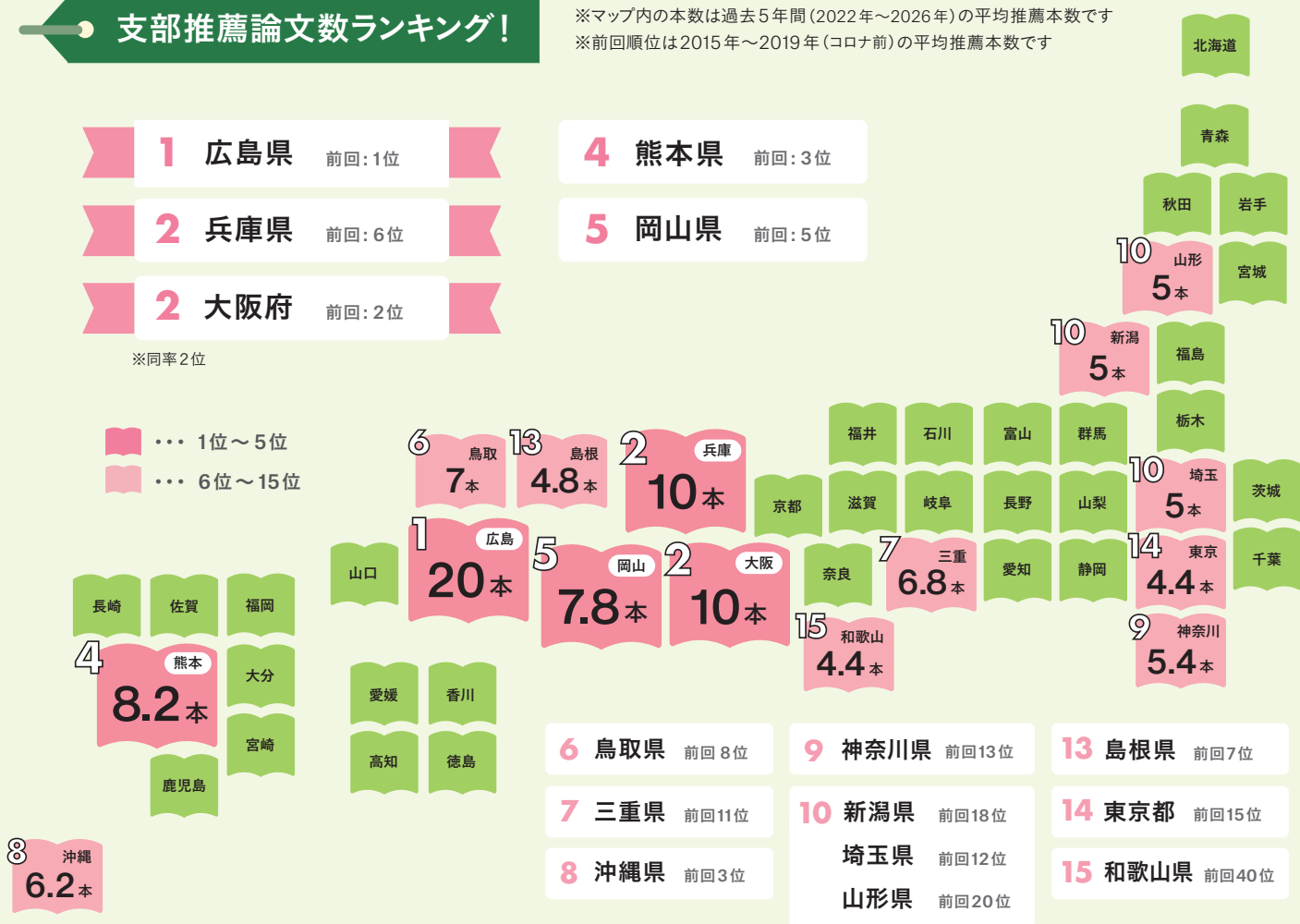
**1 広島県** 前回: 1位

**2 兵庫県** 前回: 6位

**2 大阪府** 前回: 2位

※同率2位

… 1位～5位  
… 6位～15位



## 群席として4年間、常に上がっているテーマ

退院支援

認知症・高齢者

新型コロナウイルス感染症

看護管理

薬物療法

統合失調症

医療安全



## 支部でどんな工夫をしていますか？

論文が次々と生まれる支部には理由がありました。研究発表会の運営と査読の工夫に迫ります。

### 広島県支部

#### 地区ごとの発表とサポート体制で研究に挑戦 —— 支部で生まれる看護研究の循環

当支部では、西部、東部、中部の3地区の各地区長が看護研究を担当しています。コロナ禍では地区活動の負担を懸念する声もあるなか、「地区発表は心理的ハードルが低く、新人でも挑戦しやすい」という現場の声を受け、この体制を継続しました。



例年9月に地区発表会を開催し、参加者アンケートも参考に、講師者と教育委員で論文を選考します。この際、支部で推薦する論文と「支部長賞」「講師者賞」「教育委員長賞」を選び、受賞者には表彰状と賞金を授与しています。「やったー！」と喜ぶ受賞者の姿や、学術集会で支部の発表者から声をかけてもらえることに、何よりうれしさを感じます。励みになるのは、看護研究研修会の講師が、い

つも「現場の声が聞きたい、いまの臨床が知りたい」と言うてくださることで。

気をつけているのは、査読する看護研究委員がひとりにならないよう師長らから「いま、どこまで進んでいる？」と声をかけること。苦勞した分、達成感を得てもらいたいと思っています。

また、当支部では、前年の発表者が、翌年には後輩のサポート役として2、3年と連続でかわり「育てる」というよい循環があり、日精看の学会で発表し、ご当地を楽しみ、また研究したくなる空気ができています。今年は静岡でハンバーグを食べようと、いまから計画しています。学術集会は、他施設の人と話す機会としても、本当に貴重な場だと思っています。



藤井陽子（ふじい・ようこ）  
広島県支部教育委員長、医療法人社団 緑誠会光の丘  
病院訪問看護主任、精神科認定看護師（広島県）

### 大阪府支部

#### 会員のニーズに合わせた 看護研究研修会と査読体制

大阪府支部では、看護研究の基本や研究手法の習得をテーマにした研修会を、年1回開催しています。参加者には事前課題「どんな研究をしたいのか？」を20字程度で、2、3個考えて提出してもらい、講師の先生からていねいなフィードバックを受ける形式をとっており、今後の研究に役立ててもらっています。

2024年度までは5月に開催していましたが、教育委員で調査・検討し、院内で研究計画書を提出する時期に間に合うように開催しようと、2025年度からは12月に変更しました。参加者数も以前より増加しました。



支部に応募された研究は、まず教育委員が主に倫理的な視点で一次査読を行い、研究者による修正を経て、大学教員やCNSなど外部の方に査読していただく

体制をとっています。査読の公平性を期すため、論文1題につき3名の外部の方が査読・採点し、平均点が合格ラインに達している論文を全国大会に推薦するという仕組みをとっています。査読結果や講評をていねいにフィードバックすることで、研究者は「見守られ、評価してもらえている」という安心感を得ることができ、さらなるモチベーションや成長につながっています。

支部として看護研究を大切にする姿勢は、長年受け継がれてきた支部活動として根づいています。論文の質を高めていくことで会員のみなさんに還元していきたいと思っています。



和井政利（わい・まさとし）  
日精看大阪府支部 事務局長、地方独立行政法人  
大阪府立病院機構大阪精神医療センター 副看護師長（大阪府）

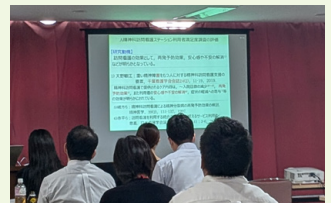
### 熊本県支部

#### 支部で育てて、全国へ —— プラスしかない他施設の仲間との触れ合いを大事に

当支部研究発表会では、2か月かけて論文を読み込んだ講師とのディスカッションとアドバイスが1題につき約30分かけて行われます。

研究はとても苦勞しますが、経験と勘にだけ頼るのでなく、自分の看護を「見える化」して、問題を掘り下げられるので、その後の糧・財産になります。また、全国大会のような晴れ舞台で、自分の看護を発信する経験や、土地柄の違いを超えて、同じ悩みや苦勞を抱えた精神科看護の仲間がいることを実感できます。他施設の仲間と触れ合うことで、「自分たちはまだできていない」と思っていたことが、「意外とできています」と気づいて自信につながることもあります。他の病院の取り組みを知ることで、新たな課題が見え、いままでは考えられなかったようなアイデアが生まれることもあります。こうした経験は日精看ならではのことだと思います。

また、教育委員が手分けして行う査読は、論文を読み込む力がつくとともに、ほかの病院の取り組みから学ぶ機会となっています。支部の研究にかかわる取り組みは、県内の看護管理者に、指導・育成という位置づけで認知され、活発な論文投稿につながっていると思っています。今後も、病院同士のネットワークの強さと、密な情報交換を武器に、研究を通じた成長の機会をたくさん提供できるように活動していきたいと思っています。



北川文浩（きたがわ・ふみひろ）  
熊本県支部 支部長、医療法人  
信和会城ヶ崎病院 看護部長（熊本県）

兒玉洋（こだま・ひろし）  
熊本県支部 教育委員長、医療法人  
尚和会龍田病院 看護部長（熊本県）

### 研究を日精看がサポートします！

研究倫理審査・共同研究マッチング・  
メディカルオンラインをご活用ください！

これから研究に取り組みたいと思っているけど、サポートを得るのが難しい方や、研究を行ったことのない方々に朗報です！

日精看では、研究倫理審査や共同研究マッチングなど、会員のみなさんの研究サポートや、学術集会で発表された論文を検索できるメディカルオンラインを提供しています！『日精看ニュース』2025年4月22日号（No.779）をぜひご覧ください。

クリニカルラダーを導入している全国の施設めぐり、その施設のラダーの特徴や課題をお伝えしていきます。ラダーの導入準備や運用方法、看護教育の情報収集などにお役立てください。



日精看版ラダーの詳細はコチラから!

## 日精看版ラダーへの移行

日精看版ラダーの運用を開始したのは2024年度からです。もともとは日看協のラダー（以下、JNAラダー）を使用していましたが、日精看版ラダーが公表されたことをきっかけに移行を進めてきました。

JNAラダーはあらゆる場で働く看護職に共通して求められる看護の核となる実践能力を示しているため、実践能力が抽象的に表現されていました。JNAラダーを活用するにしても行動目標を満たす具体的な看護実践を表現することが必要でしたので、日精看版ラダーでそこが表現されたことは移行する大きなきっかけになったといえます。

移行にかかった期間は10か月ほどです。日精看版ラダーもJNAラダーの構成を基本としていたので、形を大きく変える必要はありませんでした。しかし、ラダーに示された各実践力の項目を変更してもいいのか、どのように整理したらいいかは迷うところでした。ここは学術集会や、日精看が無料で開催しているクリニカルラダー意見交換会で情報収集をしながら検討を重ね、まずは日精看版ラダーをそのまま使用し、徐々に内容を精査していく方針としました。

また、JNAラダーからの移行をきっかけに、ラダーを自分自身の実践能力の指標やキャリア開発のツールとして活用してもらえるように、あらためてラダーを導入する意味や運用の流れなどをスタッフに説明する動画を作成したり、管理職を主な対象とした説明会を開催してきました。

実際に運用が始まると、活用する側の負担感や「いつ何をしたらいいかわからない」という声が聞こえてくる場合があります。導入してから間もないため、仕方がない部分はありますが、負担感だけにとどまらないように、「何

## 日精看版ラダーを導入してよかったと思うこと

日精看版ラダーに移行するにあたり、学術集会やラダー意見交換会で他施設の方と情報交換をしました。施設によってさまざまな特徴がありとても勉強になりましたし、直接病院を訪問させていただく機会もありました。院内だけでは解決できないことも横のつながりによって先へ進むことができたことは心強く、今後も教育に関するだけでなく、さまざまなテーマで協力しあう関係ができたと思っています。

また、これまでの院内教育のシステムは感覚や経験則でつくりあげてきたところがありますが、今回は日精看版ラダーを基本として他施設の運用方法を参考に再構築したため、当院の教育システムとして説明しやすくなりま

### お話をしてくださった方

前列中央：吉田博樹さん（看護部長）  
 後列左：木高広美さん（看護部次長）  
 後列中央：岩佐貴史さん（看護師長／教育委員長）  
 後列右：松永美則さん（看護部次長）



### 病院 DATA



#### 三重県立こころの医療センター

【所在地】三重県津市  
 【病床数】計318床  
 （単科精神科病院）  
 【看護職員数（2月時点）】  
 看護師 145名  
 准看護師 1名

のためのシステムなのか」を根気よくていねいに伝えていきたいと考えています。

そのほか、ラダーを導入したことによって、個人が作成する書類や、管理者が確認する書類が増えます。当院は人事考課を行っていますので、少しでも書類の作成や確認作業のボリューム感をおさえるために人事考課の評価シートにラダーの評価も記載するという書類の工夫も予定しています。人事考課とラダーの評価が連動しているわけではありませんが、こういった工夫も大事なことだと感じています。

した。看護実践力を評価するにあたっては自己評価と他者評価を採用していますので、管理者自身があらためて人材育成について考えるきっかけになっています。スタッフのキャリアアップ支援のために評価や面接を勉強する機会になるなど、管理者のスキルアップにつながっていくことも、導入してよかったことの一つです。

今後はラダーに示された実践能力の整理や運用の見直しの段階に入っていきます。スタッフは自身の看護実践能力を伸ばしながらキャリア形成をしていくツールとして、組織はスタッフのキャリアを支援するツールとして活用できるように、ブラッシュアップしていきたいと思



木戸芳史(きど・よしふみ)  
浜松医科大学医学部看護学科 教授  
日本精神科看護協会 業務執行理事  
(静岡県)



学術集会論文の  
提出に関する  
情報はコチラから

## # 28 参考になる事例研究と実践報告(最終回)

今回は参考になる事例研究と実践報告を右の表に紹介します。タイトルを検索するとダウンロードができるでしょう。いずれも精神科看護ではありませんが、参考になります。

読み比べてみると、いくつかの違いがあることに気づくでしょう。

実践報告は時系列に患者の状態、看護師のかかわり、患者の反応などをそのままに記述していますが、あまり分析的ではありません。

それに対して、事例研究はいずれも分析方法が構造化され、グループで多角的に分析し、ケアや事象の本質に迫っています。事例研究をする場合は、共同研究者の中に研究手法に熟達した人がいるほうがよいでしょう。そういう意味でも、臨床実践の場では、まずは実践報告という形で自身のケアをまとめてみるのがおすすめです。そして、ぜひ日精看の学術集会に「実践報告」として発表してください。

今回で、4年間続いたこのコラムはおしまいです。ここまでおつきあいいただき、ありがとうございました。またお目にかかれる日を楽しみにしています。

種類	タイトル	掲載誌	特徴
事例研究	抑うつと認知機能低下があり救急搬送が頻繁だった独居高齢者の穏やかな在宅生活を可能にした訪問看護実践	日本在宅看護学会誌(2025年)	「ケアの意味を見つめる事例研究」という手法を用いた事例研究。
	重症心不全患者と家族の穏やかな在宅療養継続を支える訪問看護師の実践	家族看護学研究(2023年)	「ケアの意味を見つめる事例研究」という手法を用いた事例研究。
	特別養護老人ホームに暮らす重度認知症高齢者のエンド・オブ・ライフに対する価値観の表出を促す看護援助	老年看護学(2022年)	研究目的に沿ったかかわりを抽出し、関わりの意味や本質を研究目的に照らして看護援助の名称をつけ、分類した研究。
実践報告	脳死肝移植待機患者に対する看護実践と多職種連携に関する事例研究	日本看護学会誌(2023年)	時系列で患者の状態、看護師のかかわり、患者の反応をていねいにまとめている。
	糖尿病合併症が進行した独居男性に対するその人のもてる力を生かしたセルフケア支援	せいいい看護学会誌(2017年)	専門看護師の視点で、時系列で患者の状態、看護師のかかわり、患者の反応をていねいにまとめている。

## 地域から届けます！ 精神科看護師のメッセージ

いま、地域で働く精神科看護師が増えています。みなさん、どのようなことを大切にしながら実践しているのでしょうか。



訪問看護の情報はコチラから

### 第15回 「この子らを世の光に」の理念を原点に生きることを支える

わずかな反応から思いを読みとる

びわこ学園医療福祉センター草津は、日本の障がい者福祉の礎を築いた糸賀一雄先生(びわこ学園創設者)の「この子らを世の光に」という理念を原点とし、医療と福祉が連携しながら、重い障害や医療的ケアを必要とする方々の暮らしを地域のなかで支えています。利用者一人ひとりの存在そのものに価値があり、その人らしく生きることを支える——。このことを支援の中心に据えています。

日々の実践では、利用者の行動や心身の変化を単なる症状としてとらえるのではなく、その背景にある思いや不安、生活環境に目を向けることを大切にしています。重症心身障がい児者の看護では、表情やしぐさだけでなく、モニターに表示される脈拍数の変動や、人工呼吸器の呼吸回数の変化など、わずかな生体反応から思いを読み取ることも重要です。医療的な視点と生活の視点をつなぎ、多職種と連携しながら、安心して過ごせる環境づくりと信頼関係の構築に努めています。

#### 医療と福祉の架け橋として

当学園では利用者の興味や、もつ力を尊重し、アートや音楽、美容などのサークル活動、プール活動、外出レクリエーションなど、生活の幅を広げる多様な機会を提供しています。看護師は健康状態の確認や医療デバ



イスの調整準備を行い、利用者が安心して参加できるよう支援しています。活動を通じて生まれる喜びや交流は利用者の自己表現や社会参加を後押しし、日々の生活に新たな活力をもたらしています。

地域のなかでは、医療と福祉の架け橋として、利用者やご家族、関係機関が安心して相談できる存在でありたいと考えています。支援が難しい場面においても、地域全体で支える視点を大切に、継続的な支援につなげていくことが私たちの役割です。

今後は、利用者の高齢化や支援ニーズの多様化といった課題に向きあいますが、専門性の向上と人材育成を進めていきます。これからも地域に信頼され、必要とされ続ける学園として、一人ひとりの暮らしに寄り添う支援を続けていきます。

精神科認定看護師は、福祉の現場でも活かせる資格だと実感しています。その専門性を自信に、利用者の暮らしを支える看護を共に広げていくことにやりがいを感じています。



野口洋一(のぐち・よういち)  
社会福祉法人びわこ学園びわこ学園医療福祉センター草津 看護課長、精神科認定看護師(滋賀県)

## 精神科認定看護師実践報告

精神科認定看護師は全国のさまざまな施設で、質の高い看護実践に取り組んでいます。その現場での実践内容を紹介します。  
\*なお、倫理的配慮として個人が特定されないよう、事例には改変を加えています。

# 精神科認定看護師 JOURNAL

### 実践の背景

当院こころの医療センターは、全国でも数少ない救命救急センター併設の有床総合病院精神科です。そのため、自殺関連行動による救急搬送や切迫した外来受診を日常的に受け入れており、多くは精神科救急や身体合併症病棟での治療を要します。

当センターでは、自殺未遂者への介入を重要課題の一つと位置づけ、多職種で包括的支援を行っています。私は精神科救急急性期病棟に所属する精神科認定看護師として、「再発予防」を主要なテーマに掲げ、自殺関連行動をくり返す患者への介入に注力し、患者が抱える生きづらさに寄り添う支援を実践しています。

### 自殺関連行動をくり返す患者への支援

自傷や自殺企図をくり返す患者は、強い苦痛や苦悩から「心理的視野狭窄」に陥っています。背景には複雑な要因が絡み、自傷自体が「対処行動」として機能している場合も少なくありません。

入院後も「死にたい」と訴え、自傷をくり返す患者に対し、私たちは「自分の言葉が患者を追い詰めないか」「どのような支援が正解か」という葛藤や「かかわりの難しさ」に直面します。

私は精神科認定看護師として、この状況を改善すべくBio-Psycho-SocialモデルやMSEの視点を用的包括的アセスメント

にもとづき、支援を実践しています。今年度は延べ38名に介入しました。

直接介入において私が最優先しているのは、技法を適用する前の「土台づくり」です。まず「死にたい気持ちや自傷願望」を否定せず、沈黙も含めた語りを深く聴きます。そこから精神疾患による症状の影響や、心理社会的問題といった背景をひもとき、アセスメントを深めます。

このプロセスを経て安心できる関係性を築いた土台の上で、はじめてクライシスプランの作成や認知行動療法のアプローチを用いて、患者自身の「援助希求能力」を高める支援を展開しています。

また、退院後の「支援の輪」構築も重視し、主治医や精神保健福祉士と連携してSOSを出せる体制を整えます。必要に応じて看護外来にて支援を継続しますが、「自傷が減り、就労支援に通いはじめた」「困りごとの対処を一緒に考えてほしい」といった報告を受けることがあります。看護外来で、その人らしい笑顔を取り戻した姿を見ることができ、私の最大のやりがいです。

### スタッフが自信をもってかかわるためのサポート

しかし、私一人が介入できる人数には限りがあります。そのため個人の実践以上に重視するのが、スタッフの迷いや不安を解消する働きかけです。

気軽に相談できる「活用しやすいコンサル

テーション」を心がける一方、苦慮する場面では私から具体的な方向性を提案します。

一つの道筋を共有することで情報の整理を助け、スタッフが安心してケアを考え、根拠にもとづいたケアを実践できるようサポートします。実際、スタッフからは「アセスメントの視点が増えた」「介入に安心感をもてた」といった声が聞かれ、こうしたスタッフの自己効力感の向上がチームの看護の質を高めると信じています。

自信をもってかかわれるスタッフが増えることは、患者がその人らしい生活を取り戻すための何よりの資源となります。これからも、自身の介入スキルを高めることはもちろん、スタッフを支える「縁の下の力持ち」としても、精神科認定看護師の専門性を磨き続けていきます。



宮脇 克支(みやわき・かつし)  
福井県立病院 こころの医療センター  
精神科認定看護師(2023年登録)  
(福井県)

より質の高い看護を通して患者の回復を支え、その人らしい生活の実現に寄り添いたい。その思いから、精神科認定看護師をめざしました。



精神科認定看護師制度  
ガイドブックや過去問題  
集など情報満載

# INFORMATION

## 精神科認定看護師制度

### 精神科認定看護師 教育課程がスタート！

新年度を迎え、精神科認定看護師教育課程の開講式を4月1日に開催し、約60名の方が精神科認定看護師をめざしています。4月から7月までは共通科目で身体面をじっくり学び、8月から始まる認定科目では精神保健医療福祉や精神科看護などの専門的知識を深めます。そして、演習・実習では、精神科認定看護師の役割を実践的に学びます。

### 2026年度 精神科認定看護師教育課程 スケジュール一覧

※税込価格

研修会名	科目名	開催方法	日程	日数	会員受講料 (非会員受講料)	研修会名	科目名	開催方法	日程	日数	会員受講料 (非会員受講料)		
共通科目	共通科目1	臨床病態生理学	VOD	4/2(木)~4/3(金) 4/6(月)~4/10(金) 4/13(月)~4/15(水)	10日間	424,600円 (849,200円)	認定科目	認定科目1	精神科看護学、精神科看護における看護倫理、意思決定支援	東京	8/8(土)~8/12(水)	5日間	213,400円 (426,800円)
	共通科目2	臨床推論	VOD	4/17(金) 4/20(月)~4/24(金) 4/27(月)~4/29(水)	9日間			認定科目2	ライフサイクルとメンタルヘルス	VOD	8/17(月)~8/20(木)	4日間	
	共通科目3	フィジカルアセスメント	VOD	5/1(金)~5/2(土) 5/12(火)~5/15(金)	6日間			認定科目3	精神科看護に関連した法規と制度	VOD	8/24(月)~8/27(木)	4日間	
	共通科目 演習1	臨床病態生理学、 臨床推論	ライブ 配信	5/6(水)~5/8(金)	3日間			認定科目4	精神科医療の治療を支える技術、看護研究	ライブ 配信	8/30(日)~9/2(水)	4日間	
	共通科目4	臨床薬理学	VOD	5/18(月)~5/22(金) 5/25(月)~5/30(土)	11日間			認定科目5	精神科医療の治療を支える技術、関係性を築く技術、精神科看護学	東京	9/5(土)~9/9(水)	5日間	
	共通科目5	疾病・臨床病態概論	VOD	6/2(火)~6/4(木) 6/9(火)~6/11(木) 6/16(火)~6/20(土)	11日間			認定科目6	コンサルテーション論、教育論	東京	9/12(土)~9/15(火)	4日間	
	共通科目 演習2	フィジカルアセスメント	東京	6/5(金)~6/6(土) 6/7(日)~6/8(月)	2日間			認定科目7	安全を守る技術、地域生活を支える技術	ライブ 配信	9/18(金)~9/21(月)	4日間	
	共通科目 演習3	臨床薬理学	ライブ 配信	6/13(土)~6/14(日)	2日間			認定科目8	リエゾン精神看護、看護マネジメント論	東京	9/24(木)~9/27(日)	4日間	
	共通科目6	医療安全学/ 特定行為実践	VOD	6/23(火)~6/26(金) 6/29(月)~7/1(水)	7日間		演習・実習	総合演習	総合演習	原則として 自施設 VODなど	9月~10月の指定された期間、他に 集合研修あり	4日間	126,500円 (253,000円)
	共通科目 演習4	疾病・臨床病態概論、 医療安全学/特定行為実践	ライブ 配信	7/9(木)~7/11(土)	3日間			臨地実習Ⅰ	臨地実習Ⅰ	協会指定 実習施設	11月~1月の指定された期間、他に 集合研修あり	18日間	
	共通科目 実習	臨床推論、フィジカルア セスメント、医療安全学/ 特定行為実践	東京	7/15(水)~7/20(月) 7/22(水)~7/27(月)	6日間			臨地実習Ⅱ	臨地実習Ⅱ	原則として 自施設	11月~1月の指定された期間、他に 集合研修あり	6日間	
	科目修了 試験	全共通科目(6科目)	オンラ イン	8/3(月)~8/5(水)	3日間		修了試験	全科目	東京	2/19(金)	1日間	22,000円 (44,000円)	

※基本の講義時間(ライブ配信・集合研修):9時~16時/※オンデマンド配信(VOD)の日数は1日3時間程度視聴した場合の日数  
※東京:集合研修/東京研修会場(一部は東京研修会場およびその近隣)

### 精神科認定看護師を めざす方のための説明会

この説明会では、認定制度の概要や精神科認定看護師の実践報告を行います。資格取得に関心のある方、精神科認定看護師のお話を聞きたい方、看護管理者として人材育成をお考えの方など、どなたでもご参加いただけます。マナブルから下記の研修会にアクセスするとプログラムなどの詳細を確認できます。

【申込方法】マナブルからお申し込みください。

【参加費】無料

【内容】精神科認定看護師制度の概要、実践報告、看護管理者の活用など

研修会名	開催日	開催方法
精神科認定看護師をめざす方のための説明会 ライブ配信編	2026/5/30 13時~16時	ライブ配信
精神科認定看護師をめざす方のための説明会 オンデマンド配信編	2026/6/10 ~2027/3/5	オンデマンド



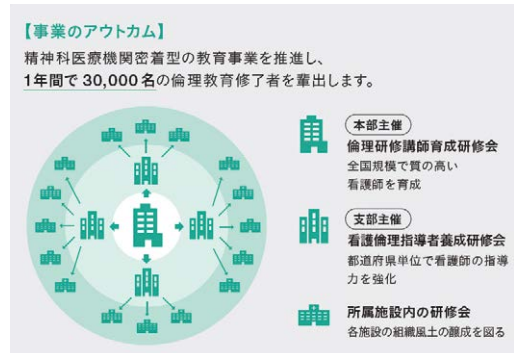
### 日精看の政策企画事業に関連した研修会のご案内

今回は、2026年度に実施する日精看の政策企画事業に関連した2つの研修会についてご案内します。  
日精看では、2024年度から『精神障がい者への適切なケアを行うための倫理教育推進事業』を実施しています。2026年度からは『行動制限最小化を実現するための看護実践推進事業』も始動します。いずれの事業も、それぞれの事業に沿った研修会を本部と47都道府県支部で開催します。  
日精看本部・支部・各施設が協働し、精神科看護のさらなる向上をめざします！

#### 『精神障がい者への適切なケアを行うための倫理教育推進事業』

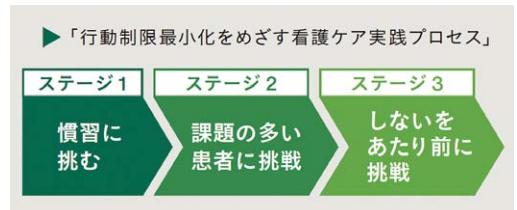
精神保健福祉法の改正により、精神障がい者の権利擁護体制の充実と虐待防止に向けた取り組みが高まっています。本事業では、本部・支部・各施設が一体となって全国の精神科看護職の倫理教育がさらに推進できるよう、精神障がい者への適切なケアを行うための倫理教育推進事業を引き続き実施します。

- **本部主催『倫理教育講師養成研修会』**（7時間）  
【日程】 5/15(金)  
【会場】 日精看東京研修会場  
【受講料(税込)】 会員11,550円 非会員23,100円
- **支部主催『看護倫理指導者養成研修会』**（4時間）  
マナブルよりご確認ください。



#### 『行動制限最小化を実現するための看護実践推進事業』

本事業では行動制限に頼らない看護の成功体験を共有しながら歩みを進めることで、全国の精神科病院において「行動制限（特に身体的拘束）に頼らない」ことをあたり前とし、看護ケアの力によって患者の尊厳・安全と職員の安心を守ることをめざします。



	本部主催（リーダー養成）	支部主催（普及・啓発）
タイトル	『行動制限に頼らない看護実践マネジメント研修』	『現場の挑戦の軌跡に学ぶ身体的拘束に頼らない看護』
研修時間	6時間	3時間
対象	精神科認定看護師、または主任以上の役職にある方、行動制限最小化委員会等の活動に携わっている方 など	精神科・一般科病院の看護職
目的	対象者とのパートナーシップを基本とし、行動制限に頼らない看護実践を推進するために「行動制限最小化をめざす看護ケア実践プロセス」をマネジメントする力を養い、「行動制限をしないをあたり前」とする臨床をめざす	行動制限最小化をめざす看護ケア実践プロセス「ステージ1：慣習に挑む」をふまえて臨床実践を振り返り、慣習的な実践に対して問題意識をもつことができる
開催地・日程	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京：5/24(日) 日精看東京研修会場</li> <li>大阪：6/6(土) 大阪精神医療センター（予定）</li> <li>熊本：5/31(日) 熊本市国際交流会館</li> <li>石川：6/13(土) 金沢医科大学</li> </ul>	10月以降に47都道府県支部にて開催を予定しております。詳細はマナブルよりご確認ください
受講料	会員9,900円 非会員19,800円	会員4,950円 非会員9,900円



学術集会の  
情報は  
こちらから

## 第51回 日本精神科看護学術集会 in 静岡

会期：2026年6月26日(金)～27日(土)

会場：アクトシティ浜松(浜松駅から徒歩5分)

\*26日(金)8時20分から受付・入場開始。18時ごろプログラム終了予定

\*27日(土)8時20分から受付・入場開始。16時ごろプログラム終了予定

事前申込期間：2026年4月1日(水)正午～5月7日(木)正午

※チラシなどのご案内より、申込期間を1日延長いたしました。

\*参加申込方法は日精看オンライン「学術集会専用ホームページ」へ

### 支部企画×市民公開講座 27日(土)14:00～開演

音楽は、人間のもっとも原初的な表現の一つです。喜びや悲しみ、懐かしさや高揚感——音楽はそれらを瞬時に呼び起こし、私たちの心の奥深くに共鳴します。しかし、その感動の源泉は、実は“偶然”ではありません。旋律の流れ、和音の選び方、リズムの間合い……そのすべてが精密に感情を設計する力を秘めています。

本講演では、吹奏楽団の演奏を交えながら、楽理と感情の密接な関係を解き明かします。理論と感性が交わる瞬間を実際に“耳で体験する”ことで、参加者は音楽の深層にある構造的な美しさを味わうことができるでしょう。単なる知識としての理論ではなく、音を通して“心が動く理由”を体感すること。それこそが、本企画の最大の目的です。音楽が人と人をつなぐ力、そして感動が生まれる瞬間の仕組みを、理論と実演の両面から探求します。



吹奏楽指導者・トロンボーン奏者  
プロデューサー：塚本 修也



司会：木戸 芳史  
演奏：浜松市民吹奏楽団

東京藝術大学卒業、英国王立音楽院修了、1996-2017 シエナ・ウィンド・オーケストラ在籍。現在、桐朋学園芸術短期大学講師、日本トロンボーン協会理事、浜松トロンボーン協会会長、公益法人日本吹奏楽指導者協会 関東甲信越支部理事・神奈川県支部副会長 事務局長、一般社団法人全日本校歌協会代表理事、アルスラポ東京音楽監督、浜松市民吹奏楽団音楽監督

### ご当地情報

#### 静岡と徳川家康

静岡県は、徳川家康ゆかりの地としても有名です。2023年の大河ドラマ『どうする家康』でその歴史に触れた方も多いのではないでしょうか。

家康は生涯の半分をこの地で過ごし、西部から中部にかけて多くの史跡が残されています。

浜松市周辺では、元城町東照宮(引間城跡)や浜松城を巡ることができ、少し足を延ばせば静岡市の駿府城公園や久能山東照宮へもアクセス可能です。

歴史とロマンを感じながら、家康の足跡をたどる旅はいかがでしょう？

かわいらしいご当地キャラクター「出世大名家康くん」も、皆様のお越しを心よりお待ちしております！



## 第33回 日本精神科看護専門学術集会 in 和歌山の演題受付のご案内

**【演題募集】** 受付期間：4/1～5/31まで

- テーマセッションを募集します
  - ・ 行動制限に頼らない看護を実現するための取り組み
  - ・ 精神科医療における人生会議  
(ACP：アドバンス・ケア・プランニング)の取り組み
  - ・ 就労継続を可能にする看護師の働き方について
- 一般演題(実践報告・研究)
- 一般公募企画(ワークショップ・交流セミナー)

#### 注意事項

※研究代表者および共同研究者、ならびに企画代表者および協力者は応募時と発表時に正会員である必要があります。

※発表者は学術集会への参加申し込みおよび参加費の支払いが必要です。応募要項や応募用紙は、学術集会専用ホームページでご確認ください。

【お問い合わせ先】

mail : senmon-gakkai@jpna.or.jp

## 光・風・人が織りなす 大島紬と精神科看護

大島紬との出会いは、2018年4月から1年間、奄美病院へ単身赴任したことがきっかけでした。ある日、観光施設である大島紬村を訪れ、「機織り体験」に参加しました。もともと着物が好きだった私は、奄美に在る間に伝統工芸品である大島紬を一反(約13メートル)織り上げ、着物に仕立てて帰ろうと心に決めました。

8月からは、休日の土日ごとに朝9時から夕方5時まで、ひたすら機に向かいました。織り続けること約6か月、翌年2月中旬、ついに一反を織り上げ、厳しい検査にも合格し、証紙を受け取ることができました。こうして、世界に一つだけの大島紬が完成したのです。

大島紬は、フランスの「ゴブラン織り」、イランの「ペルシャ絨毯」と並び、世界三大織物の一つとして高く評価されています。その製造工程は20以上にも及び、いずれも高度な技術を要します。多くの職人の手を経て、ようやく一つの反物が生み出されます。

一反の大島紬を実際に織る体験を通して、私は「精神科看護は紬に似ている」と感じました。糸と糸が重なりあ、時間をかけて布となっていく工程は、

精神科看護職が患者さまと出会い、信頼関係を築き、回復に向けて一歩ずつ歩んでいく姿そのもののように思えたのです。

そして何より、人の「手」で紡いでいくという点に、精神科看護の本質があります。それは他科にはない、精神科看護ならではの魅力であり、誇りであり、やりがいでもある——大島紬を織り上げた経験は、私にそのことをあらためて気づかせてくれました。



中菌 明子  
(なかぞの・めいこ)  
日本精神科看護協会  
副会長

## 福島県外避難者心のケア訪問業務報告

### ① 2/12(木)～13(金) 福島県外避難者への相談・交流支援事業、第2回定期連絡会議に参加

全国の生活再建支援拠点の方々へ日精看の取り組みについてご報告いたしました。

日精看の看護師との同行訪問の経験がある生活再建支援拠点の方々からは、支部の精神科看護師への感謝と高い評価をいただきました。



オンライン交流会でご登壇いただいたみなさんと事務局メンバー(前列左から)中野亜紀子さん(茨城県支部 ホスピタル坂東)、鈴木祐子さん(東京都支部 聖徳大学看護学部)、阿蘇ゆうさん(ふくしま心のケアセンター企画支援部)  
(後列左から)山寺弘子さん(福島県保健福祉部障がい福祉課)、寺沼、中庭、秋山(以上、日精看事務局)、鈴木幸恵さん(ふくしま心のケアセンター企画支援部)、横山智美さん(福島県保健福祉部障がい福祉課)

### ② 2/13(金) ふくしま心のケアセンター主催/日本トラウマティック・ストレス学会共催シンポジウム「東日本大震災15年目を迎えて“心のケア”が問い直すもの」に参加

日精看の専門学術集会 in 福島でもご登壇いただいた前田正治先生をはじめ、こころのケアにかかわる方々の話を聞き、日精看が担ってきた役割の必要性をあらためて感じました。

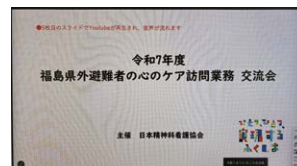
### ③ 3/7(土)「福島県外避難者心のケア訪問業務 実践報告 および意見交換会～災害を風化させないために精神科看護師ができること～」をテーマにオンライン交流会を開催

茨城県支部の中野亜紀子さん、東京都支部の鈴木祐子さんより実践報告をしていただき、ご参加いただいた訪問業務に携わっている都道府県支部の方々との意見交換を行いました。

福島県障がい福祉課、ふくしま心のケアセンターの方々もご参加いただきました。

### ④ 2025年度の訪問数

訪問対象世帯数661世帯のうち、約96世帯に訪問しました(2026/2/28現在)。ご協力いただいた支部、精神科看護職の皆様、ありがとうございました。



## 令和8年度 診療報酬改定説明会 開催しました！

2026/3/15(日)に、東京都を皮切りに全国5会場で診療報酬説明会が開催されました。説明会は「令和8年度診療報酬改定の解説と質疑応答」と「精神科医療・看護に係る改定背景とポイント」の2部構成で行われ、今後の精神科医療・看護の動向を知るうえでも大変貴重な企画となりました。

精神医療においては、精神病床における多職種協働の推進、精神科慢性身体合併症管理加算の新設、小規模多機能病院に係る評価の新設など改定がなされ、会場からも地域医療構想に向けた精神医療の再構築に関する項目に関心が集まっていました。

なお、診療報酬改定項目は6月1日から施行されます。各医療

機関で対応している状況もふまえて、診療報酬のトピックス研修(オンライン)も予定していますので、『精神科看護管理ニュース』やSNSでもお知らせしていきます。



東京会場はビジョンセンターグランド東京浜松町にて開催

## 定時総会のお知らせ

【日時】2026/6/25(木) 16:30(予定)

※宿泊を要する方は、ホテルのご予約はお早めをお願いします。

【場所】アクトシティ浜松

※代議員の方への議案書等の発送は、5月下旬を予定しております。

## 賛助会員からのメッセージ

精神科病院様専用の情報管理キャッシュレスシステム「彩Ca(サイカ)」を自社開発し、全国の病院へ提供している株式会社メディウムジャパンです。彩Caは「入院生活を送られる方々が彩り豊かな毎日を過ごされますように」との願いを込めて名づけました。Psychiatry(精神科)とCard(ICカード)を組み合わせた造語です。

患者様のお小遣い管理を看護師様が担う現場では、現金管理に伴う手間や心理的負担、トラブルリスクが存在します。彩Caは「いつ・どこで・何に・いくら」を正確に記録・可視化し、金銭管理の透明性を高めることで、本

来注力すべき看護業務に集中できる環境づくりを支援します。

現在まで全国の精神科病院約90病院様にご採用いただき、「現金トラブルの未然防止」「現金受け渡し業務および伝票処理の削減による業務改善」「ご家族への説明がしやすくなった」というお声をいただいております。今後も現場とともに進化してまいります。



渡辺将平(わたなべ・しょうへい)  
株式会社メディウムジャパン  
東京営業所

Message from Supporting member

日精看ニュース No.785 2026(令和8)年4月22日発行

編集：鈴木 庸、宮本恵理子/デザイン：TAKAIYAMA inc./運営：コッヘル/発行人：吉川隆博/発行者：一般社団法人日本精神科看護協会  
日本精神科看護協会 〒108-0075 東京都港区港南 2-12-33 品川キャナルビル7F  
TEL 03-5796-7033 / FAX 03-5796-7034 / E-MAIL info@jpna.or.jp

『日精看ニュース』偶数月22日発行 | 1部200円+税 ©日本精神科看護協会 2026 | 本誌記事、写真、イラストの無断転載を禁じます

「日精看オンライン」は  
パソコンでもスマホでも

➔ [jpna.jp](http://jpna.jp)





### お話をうかがった人

宮城県支部 事務局長  
菅原悠治さん  
(宮城県立精神医療センター)



### 聞き手

日精看 業務執行理事  
明間正人さん  
(医療法人昨雲会飯塚病院)

令和5年に宮城県で開催した東北精神科看護学術集會にて  
役員・実行委員の皆さんと。前列中央が菅原さん

### 壁を越え、多職種連携が育む 「現場の力」

**明間理事**(以下、明間) 先月は宮城県支部の研修会にお呼びいただき、ありがとうございました。ありがとうございます。役員皆さんの仲のよさと、変化を恐れない前向きなエネルギーに、私自身も大きな刺激を受けました。

**菅原事務局長**(以下、菅原) 一昨年こそ、遠方までありがとうございました。宮城県支部の自慢といえば、やはり「多職種との圧倒的なつながり」でしょうか。その象徴が、精神保健福祉士、作業療法士の団体と連携して実施している「合同宿泊研修」です。

**明間** 私が福島県の教育委員長をしていた頃も、宮城の多職種研修は有名でした。どのように始まったのですか。

**菅原** 私が事務局長を引き継いだ2006年当時、たまたま県立病院内に精神保健福祉士会や作業療法士会の事務局機能が集まっていたんです。同じ職場の仲間として顔を合わせるなかで、「自分たちがどういう視点でケアにあたっているかもっと共有すべきじゃないか」という話になりました。そこで、日精看(N)、PSW協会(P)、OT協会(O)の頭文字をとって私たちが「NPO」と名づけたのが始まりでした。

**明間** ネーミングも絶妙だと思っていました。最初はPSWとの2団体で、その3年後にはOT協会も加わったそうですね。菅原 はい。飲み会などのイベントだけでなく、しっかり「研修」としてお互いの役割や視点を交換し合うことで、現場に変化が生まれました。

**明間** 具体的に、どのようなメリットがあ

ったのでしょうか。

**菅原** 大きいのは「相談のしやすさ」です。院内でも「あのときの研修にいた人だ」と顔がわかれば、長期入院患者さんの退院促進など、難しいケースでも阿吽の呼吸で連携がとれます。東日本大震災発生後の際に石巻や女川の被災地でも、職種の垣根を越えて助けあえたのは、日頃の研修で培った絆があったからです。コロナ禍の影響で宿泊研修は休止中ですが、日帰りでもいいので、この「語りあい」の場は必ず再開したいと考えています。

### 事務局変革 持続可能な支部運営の形

**明間** 菅原さんは事務局長を20年務められている「レジェンド」ですが、その運営体制も時代に合わせて変革されていますよね。

**菅原** 当初は私一人で、発送から交渉、計画まですべてを抱え込む、まさに「夜勤の合間の個人商店」のような状態でした。これでは持続可能ではないと考え、2008年に事務局を固定化し、事務員さんを雇用する体制をつくりました。

**明間** 一人に負担を集中させない。これは多くの支部が直面している課題です。

**菅原** はい。さらに、研修計画やイベント運営も教育委員長や副支部長に役割分担し、組織として動けるようにしてきました。ただ、会員数や収益の減少という課題は宮城も例外ではなく、事務局の固定費をどう維持するかは課題です。一支部ですべてを賄うのではなく、近隣の支部と事務機能を協力・共有する「広域連携」の形が、今後の効率化の力ギになると感じています。

**明間** なるほど。変化を厭わない発信力こそ、宮城の魅力ですね。事務局運営の課題を隠さず、次の形を模索する姿勢は東北全体の希望になります。

### 地域に根差し、 精神科認定看護師の未来を拓く

**明間** 宮城は行政との連携も活発ですね。菅原 昨年度は宮城県から「心のサポートー養成研修」の委託を受け、一般企業の方々に向けて精神医療の重要性を伝える活動を行いました。支部役員が自ら講師資格を取得し、今年1月までに全4回の研修を完遂したことで、来年度以降も継続の要請をいただいています。会員向けだけでなく、地域社会のニーズに直接応えることは、日精看のプレゼンス向上にも直結すると感じています。

**明間** 素晴らしい。今後のさらなる展望についてはいかがですか。

**菅原** 一つは、精神科認定看護師の活躍支援です。個々で活動している精神科認定看護師さんが、日精看というプラットフォームで連携し、その専門性をより発揮できる場を構築したいと考えています。もう一つは、北海道・東北エリア全体のさらなる連携強化です。災害が避けられない日本において、有事に助けあえる環境を日頃から構築しておくこと。それが、日精看という組織の最大の価値だと思います。

**明間** 東北、そして全国の支部が「顔の見える関係」を再構築するためのヒントを、今日はたくさんいただきました。ありがとうございました。